

「霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 26 年 3 月 2 日（日）13:00～13:20

さいたま新都心合同庁舎検査棟 7F

発言者：意見発表者 1

埼玉県蓮田市から来ました●●と申します。

霞ヶ浦導水事業のこの関係に意見をした理由というのは、私の生まれ故郷が水戸市で、まさにこの導水事業の取水口の建設をしている場所のすぐ上の高台で生まれ育ちまして、30代の頃から導水事業の進捗をずっと見てきた。何をやっているのか、だいたい名前でも想像がついていたが、それについてどのような意見があるとか、那珂川の水質、環境に対してダメージがあるとか、そういうことは全然知らずに見てきました。地元漁協とか、そのような色々な人達から反対意見が出てきて、例えばアユです、アユを取水口から吸い取ってしまうとか、それより下流の水位が下がると潤沼のシジミにも悪い影響が出てくるよと、そういうふうな影響があるということを知りまして、意見をさせていただいたという経緯です。

霞ヶ浦の水質浄化で色々な取り組みをされていると思うのですが、那珂川の水で霞ヶ浦の水を希釈するということは一時しのぎでしかなくて、ずっと続けて、果たしてあれだけの水量の霞ヶ浦が那珂川の水で綺麗になるかということを見るとちょっと無理な話というか、事業としてどうなのかなという疑問をちょっと持っています。

導水事業で那珂川の水を引くばかりではなく、霞ヶ浦の水を逆に那珂川に入れるというそういう話もありますので、今現在、水質が相当悪くなっている霞ヶ浦で、しかも生態系的にも外来魚の巣窟みたいに色々なブルーギルとかソウギョとかアメリカナマズとか、あとブラックバスとか、そういった魚がたくさん繁殖している、その水を那珂川に入れるということは、そういった生物が那珂川に入ってきたらいいかというおそれもすごく感じています。

霞ヶ浦の水質というのは、自然のサイクルを止めて、それで、1963年に完成した常陸川水門ですけど、それを完全に閉鎖してしまって淡水化を始めた、そのときから急激に悪化が始まっているわけです。自然のサイクルを止めたことがそもそもの原因だということで、それが分かっているにもかかわらず、やっぱり淡水化はやめられないということで、ずっと開門はしてこなかったという経緯があると思うのですが、もともと、淡水化事業ということ自体が、アセスメントが不十分だったんじゃないかという、そういうことをすごく思います。

それで今、様々な取り組みをしているのでしようけれども、やっぱり導水事業計画というのは、900億ですか、それだけの費用をかけて果たしてどれだけの効果があるかということを見ると、ちょっともう止めていただいた方が良くはないか、と私は思っています。やっぱりもともと利根川水系であった霞ヶ浦ですから、かなり長い距離を引いて那珂川の水を導入すること自体はちょっと計画的にどうなのでしょう、ということです。予算的なこともあるし、環境に対する懸念と言うこともあります。それで那珂川漁協の人たちが言っているような事態が、これが実際に完成して実働始まったとたんに、本当に現実のものになるという怖い部分がものすごく感じるんです。それは諫早湾の干拓とか長良川の河口堰とか、そういった同じような淡水化事業が見事に失敗しているという具体例もありますから、そういうことを考えると、本当に止めてもらいたいと思っています。

島根県の宍道湖・中海の淡水化事業も851億の事業費をかけて完成したにもかかわらず、地元の反対

によって、結局、稼働せずにそのまま終わってしまったという、そういう具体例もありますから、今、相当な費用を使って、完成に近づいていると思うのですが、完成した後の環境被害といった事を考えますと、相当なダメージになるというおそれをものすごく感じていますから、ぜひ、中止ということで考えていただきたいと思います。

以上です。